

令和8年度第2回稲沢市観光基本計画策定委員会 会議録

【日 時】 令和8年9月18日（金）午後2時～午後3時

【場 所】 稲沢市産業会館1階 大会議室

【出席者】 稲沢市観光基本計画策定委員会委員（敬称略）

大澤 健	和歌山大学経済学部教授
栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授
川 義満	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
水谷 豊	稲沢市観光協会事務局長
阿部一洋	稲沢商工会議所事務局長
小澤康彦	祖父江町商工会事務局長
高木 央	平和町商工会事務局長
岩田 毅	愛知西農業協同組合常務理事
鈴木康仁	尾張大國霊神社権禰宜
林 和伸	善光寺東海別院住職
富田 力	国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所河川公園課長
鈴木太郎	愛知県観光コンベンション局観光振興課長
内藤邦将	稲沢市経済環境部長
大口 伸	稲沢市教育委員会教育部長
佐野浩崇	推進委員会公募
岩田那佑	地域の現場で活躍しており、稲沢市の観光振興に必要と認められる者・推進委員会公募
服部みどり	地域の現場で活躍しており、稲沢市の観光振興に必要と認められる者
吉次栄子	地域の現場で活躍しており、稲沢市の観光振興に必要と認められる者

【事務局】 寺澤佳秀 稲沢市経済環境部商工観光課長
北村有希 稲沢市経済環境部商工観光課主任
山田尚子 稲沢市経済環境部商工観光課主任

（オブザーバー）

酒井仁志 稲沢市観光協会観光コーディネーター兼事務局次長
岩橋洋宗 稲沢市観光協会事務局主幹

【傍聴者】 2名

【議事次第】

- 1 委員長挨拶
- 2 自己紹介
- 3 協議事項
 - (1) 稲沢市の観光における現状と課題について
 - (2) アンケート調査・項目について
 - (3) 観光団体等への個別アンケート調査・項目について
- 4 その他

【会議の概要】

1 委員長挨拶

[委員長]

本日は、第2回稲沢市観光基本計画策定委員会として、新たな観光基本計画の策定に向け、皆様からご意見を伺いたいと思います。前計画の策定以降、本市を取り巻く環境は大きく変化しており、観光まちづくりの取組も良い方向へ進んできたと感じています。この勢いをさらに一段高める計画にしたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をお願いします。

2 自己紹介

前回欠席委員のみ名簿掲載順に自己紹介

3 協議事項

- (1) 稲沢市の観光における現状と課題について

[委員長]

これより議事に入りたいと思います。

最初に協議事項（1）稲沢市の観光における現状と課題について、事務局より説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料1「稲沢市の観光における現状と課題」について説明】

[委員長]

事務局からの説明が終了しました。ご意見、ご質問等がある方は挙手をされまして、指名後にご発言いただきますようお願いします。

[委員①]

「あいち観光戦略」は令和6年度から令和8年度までを期間としており、今年度が最終年度です。現在、次期戦略の策定を進めており、有識者の意見聴取やパブリックコメントを経て年度内に策定する予定です。稲沢市の計画策定時には、可能な範囲で新たな県戦略を反映していただき

たいと思います。

[委員長]

愛知県の現行戦略では、キャッチフレーズとして『さすが』と言いたくなる『観光県・あいち』-あいち『ツウ』リズム 2.0-』としています。外から見たら「さすが愛知県ですね」と言いたくなるような価値のある観光資源がたくさんあるので、それをきちんと使い、知ってもらえるような観光をやりたいということです。現在の愛知県の観光の軸は「高付加価値化」で、単純に観光客数を増やすのではなく、価値を理解し、認めてもらえるような観光を目指しています。その方向性は数値にも表れており、毎年実施している検証作業では、狙った通りの結果が出ています。コロナ前に比べるとインバウンドの数は戻っていないものの、消費単価が大きく上がっていて、非常に付加価値の高い観光に移行してきているというのが、数値の上でも表れているというのが今の愛知県の状況です。

次期計画では「武将」「食」「ものづくり」の3つにフォーカスし、そこから横に広げていく方向性も議論されています。こうした観光を実現するためには、行政だけでなく、企業や地元事業者など「プレイヤー」を増やし、民間が積極的に観光に関わる仕組みをつくることが重要ではないかと思っています。

稲沢市についても、「人が来ればよい」という観光ではなく、「稲沢って、さすがだ」と思ってもらえる価値のある観光をつくるという考え方は参考になるのではないのでしょうか。また、稲沢市の場合は県よりも地域の事業者や関係者と直接関わりやすいため、観光だけでなくまちづくりと結び付けながら、地域のプレイヤーを掘り起こしていくことが今後の検討課題だと思います。

[事務局]

愛知県で新しい観光戦略を出された際には、委員の皆様にも共有しながら、最終的には新たな愛知県の計画を反映できればと思っております。

[委員②]

資料の4ページで分析されているSWOT分析の「弱み」に、駅を降りた際の玄関口としての魅力やにぎわいの不足を加えてはどうでしょうか。国府宮駅やJR稲沢駅は本市の玄関口ですが、来訪者が到着した瞬間に地域の活気や魅力を感じられる状況にはなっていません。

[事務局]

国府宮駅周辺については市で再整備の検討を進めています。他の駅と比較して国府宮駅がどの程度「弱み」といえるのかという観点では、これまで十分に検討してはおりませんでしたが、新たな視点として受け止め、国府宮駅をはじめとする玄関口となる駅前の雰囲気や環境を、観光基本計画の中でどのように位置付けるか検討します。

[委員②]

国府宮駅は稲沢市の玄関口であるため、再整備・活性化を進め、駅に到着した時点で「すごい」

と感じてもらえるような場所にしてほしい。現状を「弱み」の一つと捉えてほしいと思い意見させていただきました。

[委員③]

稲沢市は、観光資源が市内に点在していることや、はだか祭など時期が限定される観光資源が多いことが特徴だと思います。そのため、年間を通して稲沢の観光情報を知ることができ、市内各地への観光の起点となる場所があると良いと思います。新しい文化センターに観光協会や案内所が設置される予定であることは確認しているが、スペースの活用についてはさらなる検討の余地があると思います。案内所としての機能だけでなく、VRなどを活用してはだか祭を通年で疑似体験できる施設や、武将の甲冑着付け・記念撮影などの体験型コンテンツを設けることで、年間を通じた観光の魅力発信につなげられたら良いなと感じました。

[委員④]

駅前のにぎわいを行政だけで生み出すことは難しく、民間事業者が出店したくなる需要や将来性を示すことが重要です。観光基本計画においても、計画を実施することで観光客数や旅行需要など、駅周辺にどの程度のにぎわいが期待できるのかを示すことが、民間事業者の出店を促す上で重要になると思います。

また、海外の著名な観光地には駅周辺に店舗がほとんどない例もあり、駅だけを観光の中心と捉えるのではなく、駅を交通拠点として位置付けた上で、地域全体として必要な機能を見極める視点も必要だと思います。

[委員⑤]

稲沢市の観光の特徴は、観光スポットが市内各地に分散していることにあると思います。分散していることを「弱み」と捉えるか「強み」と捉えるかは考え方によるが、いずれにしても稲沢の観光を考える上での大きな特徴であるのかなと思います。この特徴を活かすためには、複数の観光スポットをつなぐ「周遊性」を高めることが重要で、特に名古屋から電車で10分程度という立地の「強み」を踏まえ、公共交通機関を活用して周遊性を高めるのか、自家用車による周遊を促すのかを検討しなければ、「観光資源が分散している」という稲沢市の特徴が活かされてこないと思います。

[委員⑥]

「強み」に記載のある「名古屋市に近く交通アクセスに優れている」ことは、果たして本当に観光上の「強み」なのかなと思います。近いがゆえに名古屋へ流出し、宿泊につながりにくい側面もあり、むしろ「弱み」でもあるのではないのでしょうか。

市外・県外・海外から人を呼ぶことだけを観光と捉えず、市民や地域住民が市内で集い、楽しみ、地域への愛着を深めるという観光の側面も計画に位置付けていただきたいと思います。

[委員⑦]

稲沢市には多様な祭りがある一方、それぞれ企画・運営する団体が異なり、祭りごとに目的や方向性も異なっています。そのため、稲沢市として、インバウンドを重視するのか、県内外からの誘客を重視するのか、あるいは市民の交流を重視するのかなど、イベントごとの対象や目的を整理した上で、市全体として一定の方向性を示してはどうでしょうか。インバウンド、県内外からの誘客、市民向けの交流など、重視する対象を整理した上で、外国人にも地域住民にも楽しんでもらえるイベントを検討する必要があると思います。

[委員⑧]

稲沢市は自然が豊かな一方、市街化調整区域が多いことや土地利用上の制約が、観光や各種開発の支障となる面もあります。こうした土地利用上の制約も「弱み」として検討してはどうでしょうか。こうした土地利用上の制約が徐々に解消されることで、観光を含めた地域のさらなる発展につながるのではないのでしょうか。

[委員⑨]

観光を考える上では、来訪者のための観光なのか、地域住民のための観光なのかという視点を整理する必要があると思います。

また、現在の稲沢市の状況や課題を踏まえると、大規模な新たな施設を整備して来訪者を増やすという方法には限界があるため、稲沢市にある既存の資源を生かしていくことが重要であり、今回整理された現状や課題を踏まえ、実現可能な取り組みを一つずつ着実に進めていくことが必要だと思います。

[委員⑩]

資料の中でも、観光資源として国府宮神社が多く取り上げられているが、神社としては観光だけでなく、信仰の場としての役割が非常に大きいと思います。観光振興を進める一方で、静かに参拝したい人など、信仰の場としての神社を大切にする人への配慮も必要なのかなと思います。今後は、観光と信仰というそれぞれの役割を踏まえた上で、国府宮神社と市役所をはじめとする関係者が連携し、双方に配慮した観光のあり方について協議していくことが重要だと感じています。

[委員⑪]

寺院も基本的には信仰の場ですが、善光寺は全国的に見ても観光地としての側面が強く、観光PRにも取り組んでおります。特に来年の御開帳に向けて観光PRを進めていますが、寺院単独では情報発信に限界があるため、関係機関などにも協力を依頼しているところです。

信仰を損なわないことを前提に、観光地として魅力のある稲沢市に、市内外関わらず来訪いただけるような計画ができればと思います。

[委員⑫]

稲沢市の観光を考える中で、周辺の施設などもうまく活用していければと思っております。ま

た、他県での取組についても、できることであれば協力させていただきたいと思っております。県内に限らず、周辺施設等をうまく活用していただけると非常にありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

[委員⑪]

計画づくりでは、誰を対象とするのかというターゲット設定が重要です。市民、国内観光客、インバウンドなど、ターゲットによって必要なコンテンツやプロモーションの方法が異なるため、それぞれを意識した戦略を検討する必要があります。

また、観光専用の施設や資源が豊富にある地域ばかりではないため、既存の地域資源をどのように観光に繋げるかという視点が重要で、寺社の御開帳など、もともとは観光目的ではない地域資源についても、PR やイベント、土産物づくりなどを組み合わせることで観光振興に繋がれるのではないかと思います。産業についても同様で、観光そのものを主目的としていない産業であっても、地域の特性として存在するものを観光資源として活用することで、新たな誘客の可能性があると思います。

稲沢市の場合は、植木・苗木・盆栽などの園芸分野が地域ならではの資源と考えられますし、愛知県では「ガーデンツーリズム」の取組を進めており、地域の庭園等を繋いでPR することで観光に繋げております。

また、観光振興を進める上では、財源の確保も重要です。愛知県では、「地域未来戦略」に関連する取組を進めており、市町村が活用できる補助・財源確保の仕組みもあります。観光はまちづくりとも密接に関係するため、観光分野だけに限定せず、市全体の戦略として国や県の制度・補助金等を活用し、必要な財源を確保しながら事業を進めることも検討してはどうか。

[委員⑫]

行政だけでは対応できない分野も多いため、行政は方向性や基盤、活動しやすい条件を整える役割を担うことが重要です。委員の皆様の知見を生かしながら、実効性のある計画にしていきたいと思います。

[委員⑬]

教育委員会としては、歴史や文化財などの地域資源を生かし、観光に繋げていくことが、委員として期待されている役割だと認識しています。現状分析を踏まえ、「ないもの」を「弱み」と捉えるのではなく、現在ある資源をどのように「強み」として生かしていくかを考え、周知方法や補助金の活用方法についても検討していきたいと思います。

[委員⑭]

稲沢市には一年を通して多くのイベントがあり、最近だとあじさいまつりでの和傘貸出や夏まつりでのナイトバブルなど、新しい取組が行われており、イベントを盛り上げようと工夫していることが市民にも伝わってきます。一方で、毎年実施すること自体が目的となり、出展ブースで来場者への働きかけが十分でないと感じる場面もあります。開催目的を各関係者で共有し、来場

者との交流や満足度を高める運営が必要なのかなと思います。

[委員⑩]

地域には、花や農産物、盆栽、食など、観光資源として活用できるものが多いから、これらを稲沢市の魅力としてさらに前面に出していくことが重要だと思います。特に、稲沢市の花である菊についても、地域を代表する資源として積極的にPRしてはどうでしょうか。農協等で行われている品評会等の生産者の意欲を高める取組とも連携し、優れた生産物や生産者の思いを観光につなげてはどうでしょうか。

[委員長]

とても重要な指摘をいくつもいただいているかと思います。観光基本計画では、市外からの誘客だけでなく、市民の幸福度や満足度を高める「市民のための観光」という視点を大切に、市民自身が稲沢の魅力を知り、人に勧められるような環境をつくることが重要なのかなと思います。

また、国府宮神社や善光寺などについては、信仰の場としての役割を尊重しながら、観光資源としての価値も生かせるよう、関係者とバランスを考えていく必要があります。観光振興においては、市民や事業者の力を引き出すことも重要であり、観光まちづくりラボなどを活用し、主体的に関われる仕組みをつくっていくことが必要です。

イベントについては、毎年継続すること自体を目的とせず、それぞれの開催目的を明確にし、内容を見直していくことが重要です。

インバウンドについては、武将、植木、イチョウなど、稲沢市ならではの資源を活用できる可能性があります。特に植木については、ガーデンツーリズムなどと連携し、外国人にも魅力が伝わる観光コンテンツとして磨き上げていくことが重要です。

さらに、観光による収益を高めるためには、市単独ではなく、植木、武将などテーマごとに周辺自治体と連携し、広域的な観光ルートや消費につなげていくことが必要です。また、農産物の生産が盛んなことも稲沢市の特徴であるため、地域の農産物を活用したイベントや観光コンテンツについても検討してほしいと思います。

[委員⑪]

花をテーマとする祭りは、気候の影響で、開花時期と開催期間が合わないことがあります。その場合でも花の開花状況に左右されず、「花はあまり咲いていなかったけれど楽しめた」「また見に来たい」と思ってもらえるよう、イベント自体の内容を充実させることが重要だと思います。

また、稲沢市の「強み」として、いなっピーやウルドくんなどのキャラクター活用やスポーツに関する資源も挙げられるのではないかと思います。特にいなっピーは市外でも認知されており、稲沢を訪れるきっかけにもなっているため、こうした資源も「強み」として整理してはどうかなと思いました。

[委員長]

スポーツやキャラクターも、本市の観光資源として検討する必要があると思います。本日の意

見を踏まえ、現状分析の内容を整理してください。

（２）アンケート調査・項目について

[委員長]

次の協議事項に移ります。協議事項（２）アンケート調査・項目について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料２-１「アンケート調査について」、資料２-２「第３次稲沢市観光基本計画アンケート項目（案）」について説明】

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。ご意見ご質問のある方は挙手の上、指名されてからご発言願います。いかがでしょうか。

[委員⑮]

アンケートについて、三点意見があります。

まず一点目に、回答者の居住地だけでなく、稲沢市との関係性を尋ねる設問を加えてはどうでしょうか。在住、在勤、在学、頻繁に訪れる、過去に訪れたことがあるなどの関係性によって回答傾向が異なると考えられるため、より詳しく分析できると思います。

二点目に、稲沢市の観光の魅力を聞く設問に、スポーツも加えてはどうでしょうか。特にウルフドッグス名古屋の試合には、遠方から多くの来訪者があるため、スポーツに関する魅力も観光資源の項目に加えるとよいと思います。

三点目に、情報発信について、現在利用している媒体だけでなく、どのような情報があれば稲沢へ行きたいと思うのか尋ねてはどうでしょうか。必要とされている情報を把握した上で情報発信を行わないと、発信する媒体と内容が利用者のニーズに合わない可能性があるため、観光に興味を持つきっかけとなる情報についても調査してみても良いと思います。

[事務局]

属性については、前回調査との比較ができるよう、調査の趣旨を変えない範囲でどのような形にできるか検討します。また、その他の意見についても、反映できる内容や方法を検討します。

[委員③]

現在の観光施策に対する評価だけでなく、今後取り組んでほしい新たな観光施策や、市民が考えるアイデア・ニーズを把握できる項目を加えてはどうかと思います。例えば、鉄道など既存の資源の活用や、キャラクターとのコラボなど、新たな集客につながる取組について市民からアイデアを募ることで、今後の施策の参考になるのではないかと思います。市民を巻き込みながら企

画を検討することで、市全体で観光を盛り上げていることを発信でき、新たな観光施策やコラボレーションにつながる可能性もあると思います。

[委員②]

観光資源について、「行ったことがある・知っている・知らない」といった設問と、今回新たに追加された「織田信長の生誕地をよく知っている・名前を知っている・知らない」といった設問については、別々に設ける必要があるのでしょうか。似た内容になっているので、まとめてはどうでしょうか。

また、旅行情報の収集方法については、Instagram などの SNS だけでなく、近年利用が増えている生成 AI を選択肢に加えてはどうでしょうか。

[事務局]

質問項目については、回答者が実際にどのように受け止め、回答するのかを十分に確認した上で、より適切な設問となるよう検討します。また、類似する設問についても整理し、全体として分かりやすいアンケートとなるよう見直します。

[委員⑥]

前回との整合性を保つ必要性は理解していますが、アンケートの設問について、例えば「稲沢市を知っていますか」という設問は、市民であれば当然「知っている」と回答するため、回答者によっては違和感を感じてしまうのではないのでしょうか。また、「食べてほしい食や購入してほしい土産」などの表現は、稲沢市側の視点に偏っており、市外の回答者には答えにくいのではないのでしょうか。

[事務局]

実際には Logo フォーム上で回答するため、「食べてほしい食や購入してほしいお土産」という設問については、市内の回答者にも市外の回答者にも分かりやすいよう、補足を加える予定です。また、「稲沢市を知っていますか」という設問についても、回答者の属性が分かるよう「稲沢市民である」などの選択肢を追加することも含め、より答えやすい設問となるよう検討します。

[委員長]

アンケートには、観光に関する市民の意識やニーズを把握するだけでなく、アンケートを通じて、稲沢市が観光に取り組んでいることや、今後さらに観光振興を進めていくことを市民に周知するという目的もあります。そのため、アンケートの回答数を確保することに加え、実施自体を一つの PR の機会として捉え、市民に取組を知ってもらうことを意識して進めていくことが重要だと思います。

[事務局]

本日の意見を踏まえて設問を修正しますので、委員の皆様には改めて確認をお願いします。調

査開始後は、それぞれの所属団体や関係者、学生等への周知にもご協力をお願いします。

（３）観光団体等への個別アンケート調査・項目について

[委員長]

次の協議事項に移ります。協議事項（３）観光団体等への個別アンケート調査・項目について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料３-１「個別アンケート調査について」、資料３-２「稲沢市観光基本計画策定にあたってのアンケート調査（案）」について説明】

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。ご意見ご質問のある方は挙手の上、指名されてからご発言願います。いかがでしょうか。

[委員⑮]

対象団体について、名古屋文理大学文化フォーラム、市シティプロモーション課、コミュニティバスの担当課である市総務課、JR 貨物、JR 稲沢駅、国府宮駅などにも意見を聞いてみてはどうでしょうか。

[事務局]

対象については、前回との比較や対象団体のバランスを踏まえ、追加できる団体があるか検討します。

[委員長]

ヒアリングは、現状認識を把握するだけでなく、関係団体に観光振興の担い手として主体的に関わってもらうことを目的として実施することが重要です。ヒアリングを通じて、「市に何をしてほしいか」だけではなく、「自分たちに何ができるか」を考えてもらい、市と関係団体が対等なパートナーとして一緒に取り組んでいく関係をつくる必要があります。

そのため、今後の観光振興においてプレイヤーとして関わってほしい団体や、連携を図りたい団体を対象として、直接顔を合わせて現状認識を共有することが重要です。対象によってはアンケートではなくヒアリングを行うなど、手法についても検討する必要があります。市役所と観光協会のどちらが実施する場合でも、関係者と直接対話し、「一緒に取り組んでいく」という意識を共有することが、ヒアリングの大きな意義だと思います。

[事務局]

ヒアリングについては、対象者の状況を確認しながら、可能な場合はアンケートではなく直接

のヒアリングで対応する方向で検討します。また、観光協会とも協力しながら、実施方法や対象について調整していきます。

[委員長]

前回の担当者には、すごく手間はかかるけれども、ここを時間をかけてやっておけば、その後が楽になりますよという話をしたと思います。前は、最初はプレイヤーの顔が見えていなかったの、今後プレイヤーになってほしい人をピックアップして、時間をかけてお互いの認識を共有するというのをやりました。今の状況で同じことが必要なかは分かりませんが、次の計画を作る段階でもう一度やった方がいいということであれば、多少時間はかかりますし、手間もかかりますけれども、やりヒアリングをした方がいいのではないかと思います。

やっぱり市役所と仕事をするときに、担当者の顔が見えないとか、担当者と話ができないというのは、すごくネックになると思います。担当者もいろいろ変わるとは思いますけれども、「市って話を聞いてくれるんだ」「市も一緒にやってくれるつもりなんだ」ということを、ちゃんと市役所として示していないといけないと思います。そういう意味では、前回のヒアリングはすごく大きな意義がありましたし、私はやってもらって良かったなと思っています。

[委員③]

集客アイデアなどを聞くことも大事だと思いますが、ヒアリングでは、単純に「予算がない」「交通手段がない」といった話だけではなく、何かがボトルネックになっていて、そこに何か一つプラスされれば動き出すような部分を聞けるといいのかなと思います。例えば、「どこかの事業者とコラボできれば、もっとこんなことができるのに」といった話があれば、そこを市や観光協会が間に入って取り持つことで、できることが増えるのではないかと思います。

[事務局]

項目についてのご意見は、後日でも構いませんのでいただければと思っております。よろしくお願いします。

6 その他

[委員長]

以上をもちまして、本日予定しておりました協議事項はすべて終了しました。慎重審議いただき、誠にありがとうございました。その他、事務局から何かあればお願いします。

[事務局]

それでは最後に、事務局から四点事務連絡をさせていただきます。

一点目に、次回の第3回策定委員会につきましては、2月10日（水）15時から、こちらの会場で開催を予定しております。また、現行計画の進捗を確認する第2次稲沢市観光基本計画推進委員会についても、同日の14時から開催いたします。傍聴もできますので、策定委員のみ担っていた委員の方も、よろしければお越しいただければと思います。

二点目に、今回のアンケートについては10月上旬の開始に向けて準備を進めております。連休明けから月末までの間に、項目や内容についてご意見がありましたら、ぜひお寄せいただきたいと思います。いただいたご意見をもとに修正を行うほか、場合によっては、いただいたご意見を踏まえて事務局で一度案を整理し、「こういう形で考えています」というものをお示しした上で、改めてご意見をいただくことも考えております。

三点目として、本日お手元に「参考」として、稲沢市観光まちづくりビジョンのキックオフシンポジウムの資料を置かせていただきましたので、お目通しをお願いいたします。こちらは、前回の計画策定の最後に、市民の皆さんにしっかりと周知していこうということで、市民会館を会場に開催したイベントです。158人の方にお集まりいただき、現在も観光まちづくりラボで活動されている方にキックオフ宣言をしていただき、非常に良いきっかけになったと考えております。今回、同様のイベントを開催するかどうかはまだ決まっておりませんが、もし市民会館で開催する場合には、予約が必要になるほか、必要な予算についても事前に確保する必要があります。そのため、もし開催するのであれば、どのような内容にしたらよいか、また、第3次計画を実際に動かしていくにあたって、どのような内容であれば価値や効果があるのかについて、ご意見をいただければと思います。こちらについても、1か月程度を目安にご意見をいただけるとありがたいです。

最後に、今回の会議出席に伴う謝礼につきましては、後日、指定の口座へお振り込みいたします。対象となる方には別途通知いたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、予定の時間を超えてしまい、大変申し訳ありませんでした。以上をもちまして会議を閉会させていただきます。本日は長時間にわたり、慎重にご審議いただき、誠にありがとうございました。

以上